

2020年8月3日

各位

会社名：株式会社ワールドホールディングス
 代表者名：代表取締役会長兼社長 伊井田 栄吉
 (コード番号：2429 東証第一部)
 問合せ先：取締役経営管理本部長 中野 繁
 (電話：092-474-0555)

2020年12月期第2四半期連結累計期間の 業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2020年2月10日に公表いたしました2020年12月期第2四半期連結累計期間(2020年1月1日～2020年6月30日)の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年12月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異 (2020年1月1日～2020年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (2020年2月10日発表)	百万円 73,566	百万円 2,122	百万円 2,733	百万円 1,517	円 銭 90.13
今回実績値 (B)	70,844	2,773	2,872	2,497	145.25
増減額 (B-A)	△2,722	651	139	979	
増減率 (%)	△3.7	30.7	5.1	64.5	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2019年12月期第2四半期)	66,827	2,529	2,529	1,685	100.10

2. 差異の理由

新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、複数業種の事業ポートフォリオによるリスク分散及び従前から綿密に行ってきたリスク管理により影響を最小限にとどめることができ、予算計画に対し売上高は下回りましたが利益面においては上回る形となりました。

利益面における主な上方修正理由は、人材・教育ビジネスにおいて戦略的に注力してきた人材育成等が奏功し、テクノ事業やR&D事業でスキルアップやシフトアップが実現したこと、セールス&マーケティング事業で昨年まで行ってきた構造改革により利益体質への変革が進んだことに加え、不動産ビジネスにおいても綿密なリスク管理体制の下で時流を見据えた営業活動を行った結果計画以上に物件の引渡しが進んだこと、及び、情報通信ビジネスにおいても構造改革により利益体質への変革が進んだこと等、総合的な要因によるものであります。

なお、通期の連結業績予想につきましては2020年2月10日に公表いたしました予想に変更はありません。今後の動向に応じて業績予想に変更が生じた場合は速やかに開示いたします。

以上